2017 年度点検・評価シート

※下記の指摘事項、課題を踏まえて、Ⅱ点検・評価　Ⅲ【達成目標】欄を記述してください。

（進捗状況を【現状説明】に記述し、必要に応じて新たに【目標】を設定する。）

2016 年度大学評価（認証評価）結果指摘事項 **特に指摘事項なし**
2016 年度外部評価委員会指摘事項 **特に指摘事項なし**
前年度からの課題（2016 年度点検・評価シート Ⅳ次年度への課題 より転記） 所見への対応について具体的に記載したいと思います。 **【点検・評価項目ごとの現状説明】** 4-4-1 大学院生の学習成果を測定する評価指標としては、一般公開による修士論文発表に加えて、大学院生の所属学会でのプレゼンテーション、国内および国際学会誌に受理された論文数等が指標となり得る。過去 5 年間(2011～2015 年度)の本研究科生の平均学会発表数(2 分野合計 69 件；スポーツ科学分野 41 件、健康科学分野 28 件)は、15.6 であり、2 年生の平均人数 11.8 を上回っていることから判断すると、2 年生がおおむね学会発表を経験し学会発表が定着していると推測できる（B4-4-19）。また、過去 5 年間に、国内学会誌に 3 編(健康科学分野 3 編)、国際科学誌に 2 編(健康科学分野 2 編)、研究論文が受理され、奨励賞(スポーツ科学分野 1 件)を受賞する大学院生も出てくるなど、教育目標に沿った一定の学習成果を上げている。 本研究科は、2011 年度から 2015 年度までの 5 年間で、57 名(スポーツ科学分野 39 名、健康科学分野 16 名)に修士の学位を授与している（B4-4-29 d2-表 12）。 目標達成の指標となるもの： 大学院の学習成果として、大学院生の修士課程の研究課題に関する学会発表、論文発表、就職状況等を指標として、その効果を授業評価アンケートによって調査し、「全学教務委員会」が開発予定のポートフォリオ、ルーブリック等も併せて導入し、研究科委員会議事録、あるいは「スポーツ・健康科学研究科自己点検評価委員会報告書」にその成果を記載する。

Ⅰ　評価項目・担当部局

対象部局	スポーツ・健康科学研究科
評価基準 4	教育内容・方法・成果
中項目　4-4	成果　【自己評定 A】
点検・評価項目(1)	4-4-1 教育目標に沿った成果が上がっているか。
評価の視点	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用
点検・評価項目(2)	4-4-2 学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。
評価の視点	学位授与基準、学位授与手続きの適切性
	学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策

Ⅱ　点検・評価　対象期間は 2016 年 4 月～2017 年 5 月までとする。（教員数、学生数などのデータの基準日は 2017 年 5 月 1 日）

【点検・評価項目ごとの現状説明】

4-4-1	大学院生の学習成果を測定する評価指標としては、一般公開による修士論文発表に加えて、大学院生の所属学会でのプレゼンテーション、国内および国際学会誌に受理された論文数等が指標となり得る。過去 5 年間の本研究科生の平均学会発表数は、15.6 であり、2 年生の平均人数 11.8 を上回っていることから判断すると、2 年生がおおむね学会発表を経験し学会発表が定着していると推測できる（B4-4-19）。また、過去 5 年間に、国内学会誌に 3 編、国際科学誌に 1 編、研究論文が受理され、奨励賞を受賞する大学院生も出てくるなど、教育目標に沿った一定の学習成果を上げている。 本研究科は、2011 年度から 2015 年度までの 5 年間で、57 名に修士の学位を授与している（B4-4-29 d2-表 12）。
4-4-1	**以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【　】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。** 学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用について**【○】** 具体的事例：4-4-1 大学院生の学習成果を測定する評価指標としては、大学院生の所属分野での国内学会および国際学会発表件数、国内および国際学会誌に受理された論文数、修士論文の評価・学会発表・論文数・研究活動などの業績を加味した JASSO 返還免除者推薦者数が指標となり得る。過去 5 年間(2012～2016 年度)の本研究科生の学会発表数は(2 分野合計 71 件；スポーツ科学分野 47 件、健康科学分野 24 件)であり、年間学会発表平均件数は 14.2 件であり、2 年生の平均修了者数 10.2 人を上回っていることから判断すると、2 年生が概ね学会発表を経験し学会発表が定着していると推測できる（B4-4-19）。また、過去 5 年間に、国内学会誌に 5 編(スポーツ科学分野 2 編、健康科学分野 3 編)、国際科学誌に 1 編(健康科学分野 1 編)、研究論文が受理され、学会奨励賞(スポーツ科学分野 2 件(確認中))を受賞し、JASSO 返還免除者推薦者数 2～6 名を確保するなど、教育目

	標に沿った一定の学習成果を上げている。 本研究科は、2012 年度から 2016 年度までの 5 年間で、53 名に修士の学位を授与している（B4-4-29 d2）。
4-4-2	本研究科は、2010 年の認証評価において、「学位論文審査基準ならびに学位授与方針が学生に明示されていないので大学院手引きに明示されることが望まれる」という助言がついた。それに対応するため、2013 年度に「学位授与方針」および「学位論文審査基準」を制定し、それに基づいて学位授与（修了認定）を適切に行っている。方針と基準は、ガイダンス等であらかじめ学生に周知されている(A4-4-19 p.11～p.12、B4-4-27)。 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策としては、本研究科では学位論文の審査および最終試験または学力の確認を行うことを目的として、学位授与のための審査委員会を設置している。審査委員会は、学位請求論文に対して主査 1 名、副査 2 名で構成する。評価の公平性を確保するために、指導教員が主査に選出されることはない。また、2 名の副査のうち 1 名は、学位論文を提出した領域以外から選出されることになっている。さらに、審査委員会は、修了予定者を対象に、大学院 2 年生の年度始めに論文構想発表会および大学院 2 年の年度末に学位論文発表審査会を開催し、すべて一般公開で行われる。このように本研究科における学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われている。 本研究科では、2011 年に「修士論文指導教員のあり方に関するガイドライン」を作成し、指導教員、主査・副査間の論文作成および査読評価上、齟齬がないよう努めている(B4-4-20)。また、4 つの領域それぞれに特別研究 A（1 年）、B（2 年）を配置し、学生と指導教員とが綿密に打ち合わせを行い研究指導、論文作成指導が行われている。必修共通科目「スポーツ・健康科学研究法」では各教員が成績評価を行い、委員会が成績のとりまとめを行っている。
4-4-2	**以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【　】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。** （1）学位授与基準、学位授与手続きの適切性について【×】 具体的事例： （2）学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策について【×】 具体的事例：

【効果が上がっている事項】

4-4-1	
4-4-2	

【改善すべき事項】

4-4-1	殆どの大学院生が指導教員の所属する学会などで研究発表の経験を積んでいるが学習成果を測定する評価制度がないのでその方策を構築すべきである。
4-4-2	

Ⅲ　【達成目標】目標の進捗状況は、「S：完全に達成」　「A：概ね達成」　「B：やや不十分」　「C：不十分」　で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの		評価				
				2014	2015	2016	2017	2018
中期目標(2014～2018)	4-4-1 本研究科内の自己点検･評価委員会を中心に、学習成果を測定する評価指標を作成する。	研究科委員会議事録、あるいは「スポーツ・健康科学研究科自己点検・評価委員会報告書」	→			A	A	
16 年度目標	4-4-1 本研究科委員会および本研究科内の自己点検・評価委員会において、指導教員が所属する学会などで課題研究に関する発表を経験させるなど、学習成果を測定する評価制度を開始する。	研究科委員会議事録、あるいは「スポーツ・健康科学研究科自己点検・評価委員会報告書」				A		
17 年度目標	（対象期間は 2017 年 4 月～2018 年 3 月） 大学院生の学習成果を測定する評価指標(国内学会･国際学会の発表件数、国内・国際学会誌に受理された論文数、修士論文の評価・学会発表・論文数・研究活動などの業績を加味した JASSO 返還免除者推薦者数等)を自己点検・評価委員会が取りまとめる。	研究科委員会議事録に記載する。					A	

Ⅳ　評価専門委員会所見

全体としての所見

　多くの学生が研究発表を学会で行っていることなどは高く評価できますし、査読評価上、指導教授と副査間に齟齬がないようにしている点も良いと思います。

Ⅴ　所見への対応

今後もこのような取り組みを継続して実施していきます。

Ⅵ　次年度への課題

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

A4-4-2	大東文化大学学位規則
A4-4-11	大東文化大学大学院学則　≪既出≫A1-2
A4-4-12	2017 (平成 29)年度大学院の手引き
A4-4-19	2017 年度大学院履修要項スポーツ・健康科学研究科
B4-4-19	スポーツ・健康科学研究科大学院生の所属学会発表件数、論文数、受賞等一覧　≪既出≫B4-3-18
B4-4-20	大東文化大学大学院スポーツ・健康科学研究科修士論文指導・指導教員のあり方に関するガイドライン
B4-4-27	2017 年度ガイダンス日程表（学部・研究科）
B4-4-29	大学データ集　≪既出≫B1-22

〔追加資料〕